

1 自己評価及び外部評価結果

(ユニット名 桜棟・ぶな棟共通)

事業所番号	0290400027		
法人名	社会福祉法人 弘前愛成園		
事業所名	グループホーム静香荘		
所在地	青森県黒石市大字浅瀬石字龍の口170-1		
自己評価作成日	平成23年9月6日	評価結果市町村受理日	平成23年12月5日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

お風呂は温泉であり、利用者に喜ばれている。
四季折々の展示品の作成時に利用者と一緒に作業を行うことにより、役割と達成感が得られている。
利用者個々の生活スタイルを尊重した支援を心がけている。

※事業所の基本情報は、公表センターページで検索し、閲覧してください。(↓このURLをクリック)
(公表の調査月の関係で、基本情報が公表されていないこともあります。御了承ください。)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人青森県社会福祉協議会		
所在地	青森市中央3丁目20番30号 県民福祉プラザ2階		
訪問調査日	平成23年10月7日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

職員は利用者個々の思いや希望を大切にしたい支援に力を入れており、外出支援や医療面、食事等、個別対応を常に心掛けている。また、ホーム内に各種委員会を設置し、職員自らがホームの環境等を考える体制が構築され、職員の意見を積極的にサービス提供にも取り入れたことにより、一体的で良好な雰囲気がかがえる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

※複数ユニットがある場合、外部評価は1ユニット目の評価結果票にのみ記載します。

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	<p>○理念の共有と実践</p> <p>地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている</p>	<p>「私たちは、利用者様ひとりひとりが役割と生きがいを持って、自分らしく暮らすことを支援します」という理念を掲げ、実践している。</p>	<p>開設当時に職員全員で法人とは別に独自の理念を検討し、作成している。また、毎朝理念を唱和する等、職員間で理念を共有し、業務に反映するように努めている。地域密着については理念に明記してはいるが、日々の関わりの中で実践している。</p>	
2	(2)	<p>○事業所と地域とのつきあい</p> <p>利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している</p>	<p>地域の行事に積極的に参加している。近隣の散策時には、地域住民の方と挨拶を交わす等、関係ができています。</p>	<p>地元の町内会に加入しており、近隣住民が果物や野菜を提供してくれる等、関係性が構築されている。また、日頃から利用者と職員と一緒に近隣を散策することが多く、挨拶がてらに交流をしている。</p>	
3		<p>○事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている</p>	<p>随時、見学を受け入れている。実習生の受け入れも積極的に行っている。また、運営推進会議では、委員からの疑問等について応えている。</p>	/	
4	(3)	<p>○運営推進会議を活かした取組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>運営推進会議の開催時間をメンバーの意向に合わせて、参加しやすい日時を設定している。情報交換以外でも、外部評価の結果報告、事業計画・事業報告等の説明も行っている。</p>	<p>運営推進会議では、日頃のホームの活動状況や自己及び評価に関する報告、課題の検討等を行っている。また、推進委員が会議に出席しやすいように、農繁期には開始時刻を遅らせる等、委員の都合に合わせて参加を促し、出席率の向上につなげている。</p>	
5	(4)	<p>○市町村との連携</p> <p>市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる</p>	<p>運営推進会議に行政の介護保険係の職員が毎回参加している。また、必要に応じ、電話等でもその都度相談、報告をしてアドバイスを受けている。</p>	<p>介護保険関係の行政職員が運営推進会議のメンバーであり、出席率も高く、日頃より良好な関係性が保たれている。また、事務手続きの改善や法や制度の改正時には情報提供を受ける等、日常的に連携が図られている。</p>	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
6	(5)	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、環境や利用者の状態を考慮しながら、玄関に鍵をかけた工賃や、身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>原則として身体拘束は行わない方針である。身体拘束をせず、安全を確保する方法について、その都度職員間で検討している。玄関の施錠に関しては、夜間(21:00～5:00)以外行っていない。</p>	<p>身体拘束の弊害について、外部研修に参加する等、全職員が理解する取り組みがなされている。玄関も夜間の防犯上の施錠以外は行っておらず、ドアが開いた時のセンサーや見守り等を通じて利用者の外出傾向を察知し、支援している。また、やむを得ない場合の身体拘束に関する方針も整備されている。</p>		
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>内部研修の実施、外部研修へ参加する等により理解を深め、虐待防止に努めている。</p>			
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している</p>	<p>内部研修の実施、外部研修へ参加する等により制度の理解に努めている。</p>			
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>重要事項説明書等を用い、十分に時間をかけて説明をして、契約の締結を行っている。</p>			
10	(6)	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>利用者の日々の様子について、家族面会時に報告している。また、毎月発行している広報紙に日常の様子を記載して伝えている。年1回、家族懇談会を開催している。また、第三者委員の設置や苦情等の仕組みを整備している。</p>	<p>利用者の意見は随時、また、家族の意見に関しては面会時の他、広報誌発行の際に欄を設ける等、把握に努めている。また、出された意見や苦情は、内容によって施設の他に法人としても検討し、ホームページや事業報告書にも掲載している。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	運営会議、職員会議、フロアミーティングを毎月1回開催して、意見交換の場として活用している。	各ユニット会議で職員の意見をまとめ、職員会議で検討する体制を構築しており、勤務体制の変更等についても職員の意見を伺う等、職員の意見が運営に反映されている。また、職員は各種委員会に所属する体制となっており、職員個々の意見を大切にしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課制度を取り入れ、年2回の賞与に反映される仕組みとなっている。準職員等については、正職員への登用等の判断材料となっている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	積極的な研修への参加、資格取得については、法人全体で推進している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	市内の地域密着型サービス事業者連絡会やけっばれケアマネの会へ参加し、情報交換・交流の場として活用している。		

II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援

15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用相談時には、極力、事業所の見学をお願いしている。実際に利用する場所・雰囲気を感じてもらうことを意図としている。その上で、面談を行い、ニーズ等の把握に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用相談時には、極力、事業所の見学をお願いしている。実際に利用する場所・雰囲気を感じてもらうことを意図としている。その上で、面談を行い、ニーズ等の把握に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ニーズに合わせて、他サービスや他施設への利用についての相談を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	施設内の掃除や裁縫を一緒に行っている。また、調理方法について相談したり、実際に一緒に下拵えを行っている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日々の様子について家族の面会時に積極的に話をしている。月1回発行の広報紙に、担当から日常生活についてのコメントを記載し、情報提供をしている。また、家族との外出・外泊の支援を行っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	行きつけの美容院等や入居前からのかかりつけ医を継続して利用し、馴染みの場所との関わりを大切にしている。	初期のアセスメント時や日常の会話、家族からの情報収集により、利用者の生活歴を把握しており、利用者の過去との関係を大切にケアに取り組んでいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を把握し、知り得た情報は全職員が共有し、大きなトラブルとならないように配慮している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じ、相談を受け入れる体制がある旨、退去時に説明をしている。		

自己 外部	項目	自己評価		外部評価	
		実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	普段の会話の中や日々利用者と接していく中で、思いや意向を把握して行くように努めている。また、家族からの情報を基に、本人の思いを推測するように努めている。	センター方式の必要部分を活用し、利用者や家族から意見を収集し、利用者の思いを日々のサービスに反映させている。必要に応じて担当ケアマネジャーやかかりつけ医からも情報を収集し、活用している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前に家族や担当のケアマネジャーから情報を得ている。詳細については、利用者や家族との信頼関係が築かれた後に聞き取りを行うようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の日誌や介護経過表で、利用者の状態の把握に努めている。食事や排泄等については介護経過チェック表にて把握している。1日2回の申し送りにて情報の共有を図っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用開始前のアセスメント、利用後の介護経過等を参考に、カンファレンスを行い、ケアプランに反映させている。	介護計画の実施期間は6ヶ月としているが、1ヶ月毎に評価を行っており、利用者の状態に合わせて計画の見直しを行っている。また、利用者及び家族の意見や担当する職員の気づき等も考慮し、個別計画の作成に取り組んでいる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用開始前のアセスメント、利用後の介護経過等を参考に、カンファレンスを行い、ケアプランに反映させている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 (小規模多機能型居宅介護事業所のみ記載) 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる			

自己 外部	項目	自己評価		外部評価	
		実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	民生委員をはじめ、地域の方には、徘徊する可能性のある利用者がある事について説明をした上で、理解と協力をお願いしている。			
30 (11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、かかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医への受診対応(同行)を行っており、家族との協力の下、健康管理に努めている。			
31	○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常勤の看護師1名を配置し、必要に応じ、主治医に相談しながら、利用者の健康管理に努めている。			
32	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、入院治療が必要な可能性が生じた場合は、協力医療機関を含めた病院関係者との関係づくりを行っている。	随時面会に行き、利用者の状態確認を行うと共に、看護師等との情報交換を行っている。また、必要に応じ、医師、家族等を交えた話し合いの場を設定している。			
33 (12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、医療関係者等と共にチームで支援に取り組んでいる	本人、家族の意向を確認した上で、事業所で対応できる範囲において、出来る限りの支援を行うようにしている。		看取りに関する指針が整備されており、終末期に向けた体制が構築されている。また、医療機関や家族とも話し合いが行われており、急変時には医療機関への救急搬送により対応している。	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	毎年、消防署員の方を招いて、心肺蘇生法、AED使用手順等についての講習会を開催し、全職員が参加している。			
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年4回の消防訓練を実施している。内1回は消防署員の立会いをお願いして実施している。また、防災協力員として2名の方を委嘱しており、消防訓練にも参加してもらっている。	夜間想定も含めて、年4回の消防避難訓練を実施しており、災害に備えた備蓄品も3日分を常備している。また、防災協力員を2名委嘱しており、訓練にも参加を呼びかけている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者への尊厳を大切にされた言動に努めている。	接遇に関する研修会も実施しており、利用者の尊厳を大切にされた対応を行っている。日々の業務の中でも改善が必要な言動等が見られた場合には適宜話し合い、改善している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者とはゆっくり話をする機会を大切にし、本人の思いや希望を汲み取るよう努めている。また、思いを伝えることが困難な利用者の場合は、具体的に例を挙げて選んでもらうようにしている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の訴えを最優先にし、個々のペースに合わせて業務を行うように取り組んでいる。入浴や散歩等、その時の体調や気分に合わせて支援できるように努めている。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	常に整容に気を付けて対応している。入浴後や起床時等には、髪・衣類等を整えることを徹底している。また、行事の際等、化粧をする機会を作っている。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	定期的に嗜好調査を実施し、食事内容等に反映させている。食事の下拵えや食後の洗い物拭きを、利用者の方にも行ってもらっている。	利用者それぞれが、馴染みの茶碗や箸で食事をしており、嗜好調査による好き嫌いリストも活用し、利用者個々が食事を楽しめる工夫をしている。また、利用者の誕生日には好きなものを食べられるイベントも行っている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量のチェックを行っている。また、咀嚼や嚥下に合わせた食形態や食器の工夫をすることで、摂取量の確保に努めている。食事内容(栄養)については、定期的に管理栄養士の指導を受けている。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後歯磨きを行っており、利用者の状態に合わせて声掛け、見守り、介助を行っている。また、利用者の状態に応じ、歯科往診の対応も行っている。			
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	個人の排泄パターンに合わせ、トイレ誘導を行っている。皮膚状態に合わせた尿取りパットの使用や、排泄状態に合わせて使用の有無を検討している。	利用者個々の排泄パターンをチェックしており、排泄誘導の参考としてしている。また、個別のケアプランの中でおむつやパットの利用の有無について対応している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	朝食時に牛乳を提供している。また、便秘予防としてヨーグルト等の乳製品を摂取している。改善されない場合は主治医に相談している。			
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合だけで曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	週3~4回入浴している。入浴時間について、可能な限り本人の希望に添えるようにしている。	定例の日は設定されているが、利用者の状況や思いに合わせて適宜入浴できる体制が構築されている。浴槽自体がヒバ作りとなっており、香りでもリラックスできる設備が整っている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	疲労感が認められる時は休息してもらうように支援している。日中、できるだけ活動的に過ごしてもらい、夜間の安眠に繋げられるようにしている。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	全利用者の薬剤情報を保管し、薬剤チェックリストを作成し、確認している。内服薬が変更になった場合は注意点も含め、周知徹底に努めている。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	事業所において、役割を持って過ごしてもらうように支援しており、ケアプランにも反映させている。			
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望する場所へ外出する機会を設けている。急な申し出があった際も時間調整を行い、出来る限り対応するように支援している。	利用者個々の思いを取り入れた個人外出計画を毎月作成しており、利用者の希望を尊重した外出支援に取り組んでいる。また、ホームでは全体行事の他、個別外出に力を入れている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理できる方には限度額を決めて所持してもらい、買い物の際はできるだけ自分で支払いが出来るように支援している。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば、その都度支援している。			
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有スペースには季節の花や、利用者と共に共同で作成した掲示物を飾るようにしている。	環境美化委員会により、季節を取り入れた環境作りに努めており、展示物の制作には利用者も一緒になって関わっている。建物自体も採光性が良く、落ち着いた環境である。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下や食堂にソファを置き、気の合う利用者同士が談笑する場所として利用している。			
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用していた家具等や家族の写真を持ち込んでもらうようにしている。	居室のスペースに無理のない限り、馴染みの物の持ち込みを依頼しており、利用者個々が落ち着ける居室作りを行っている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	本人ができない部分を援助するということを基本に考え、過剰なサービス提供にならないように努めている。			